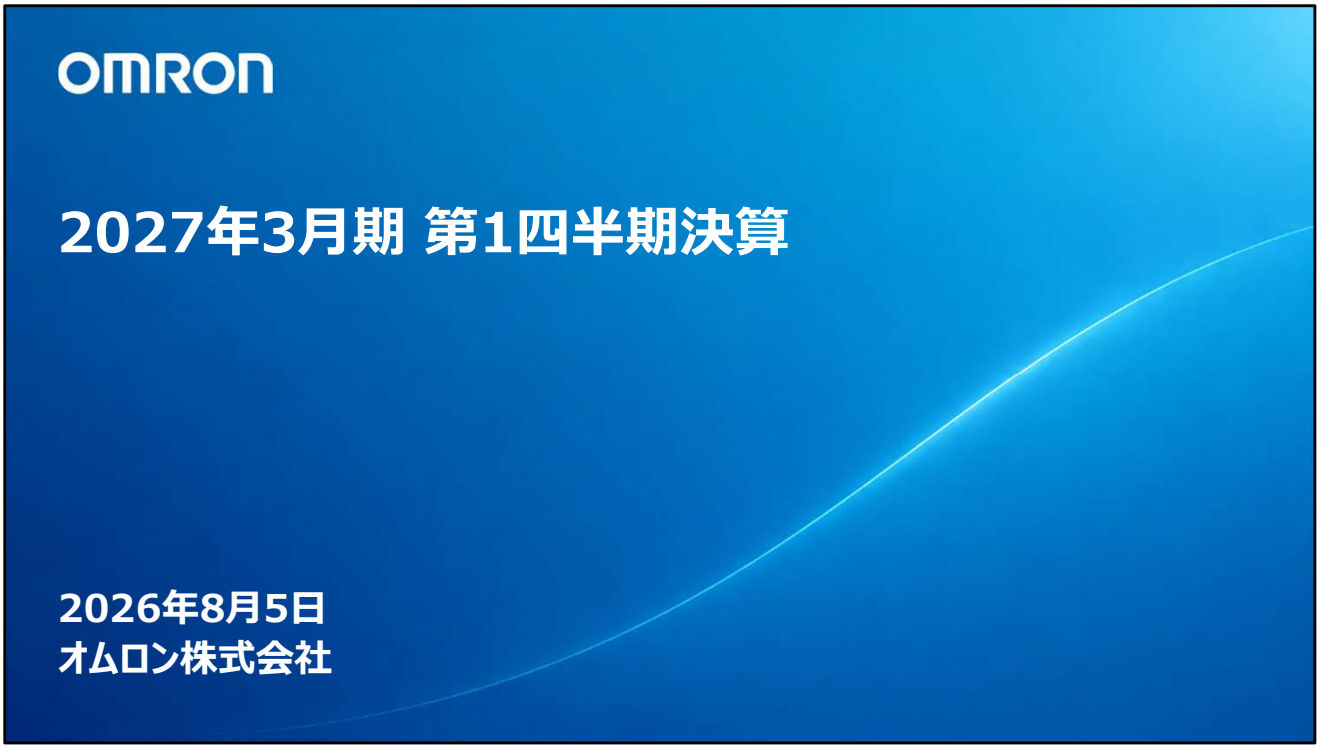


皆さんこんにちは。
CFO 兼 グローバル戦略本部長の竹田です。
本日は大変お忙しいところ、弊社の
「2027年3月期　第1四半期決算説明会」に
ご参加いただき、誠にありがとうございます。

はじめに、このたびの令和8年 熊本地震により、
お亡くなりになられた方々に、謹んでお悔やみ申し上げます。
また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

弊社事業につきましては、
サプライチェーンの一部に影響はあるものの、
重大な影響は確認しておりません。
引き続き、社員の安全を第一に、
継続的な製品供給につとめてまいります。

また、被災地の一日も早い復旧・復興に向け、
弊社としての支援を実施してまいります。

それでは、決算の内容について、
プレゼンテーション資料に沿ってご説明いたします。
次のページをご覧ください。

発表のポイント

OMRON

● **2026年度 第1四半期(4～6月)実績**

- 全社実績は、制御機器事業がグループ全体を牽引し、大幅な増収増益
- 制御機器事業は、AI関連需要の獲得に加え、顧客基盤の拡大が寄与し、大幅な増収増益
- ヘルスケア事業、データソリューション事業は、営業やマーケティングの強化が寄与し増収増益。
  社会システム事業は、事業ごとに濃淡はあるものの、売上・営業利益ともに前年並み

● **2026年度 通期見通し**

- 期初計画から売上・営業利益・当期純利益を上方修正
- 特に、制御機器事業では、期初想定を上回る好調な事業環境を背景に、
  大幅な増収増益を見込む

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

本日の発表内容は2点です。

1点目は、第1四半期実績です。

全社実績は、制御機器事業がグループ全体を牽引し、
大幅な増収増益となりました。

制御機器事業は、AI関連需要の獲得に加え、
顧客基盤の拡大が寄与し、大幅な増収増益を達成しました。
またヘルスケア、データソリューション事業は、
営業やマーケティングの強化が寄与し、増収増益となりました。
社会システム事業は、事業ごとに濃淡はあるものの、
売上・営業利益ともに前年並みとなりました。

2点目は、通期の業績見通しです。

期初計画から売上、営業利益、当期純利益を上方修正いたします。

特に、制御機器事業では、
期初想定を上回る好調な事業環境を背景に、
大幅な増収増益を見込んでいます。

それでは本編の説明に入ります。
5ページをご覧ください。

目次

1．2026年度 第1四半期(4～6月)実績 ・・・・ P.4 ～ P.7

2．2026年度 通期見通し ・・・・ P.8 ～ P.16

3．CFOメッセージ ・・・・ P.17 ～ P.19

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

1．2026年度 第1四半期(4～6月)実績

*当社は、2026年度より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用しています。
これに伴い、本資料における2025年度・2026年度の数値はIFRSに基づき作成しています。

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

1Q期間(4～6月)実績：全社連結

前年同期比で大幅な増収増益

（億円）

	2025年度 1Q期間実績	2026年度 1Q期間実績	前年同期比
売上高	1,665	**2,099**	+26.1%
売上総利益 (売上総利益率)	757 (45.5%)	**975** **(46.5%)**	+28.8% (+1.0pt)
営業利益 (営業利益率)	58 (3.5%)	**189** **(9.0%)**	+226.0% (+5.5pt)
継続事業純利益	51	**144**	+182.7%
非継続事業純利益	△1	**△34**	-
当社株主に帰属する当期純利益	46	**106**	+131.1%
米ドル　平均レート（円）	145.7	**159.6**	+13.9
ユーロ　平均レート（円）	162.9	**185.3**	+22.4
人民元　平均レート（円）	20.1	**23.3**	+3.2

＊ 電子部品事業除く全社連結実績（非継続事業組替え後）

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

初めに、26年度1Q期間の実績です。

表の中央、網掛け部分をご覧ください。

売上高は、
制御機器事業が全社を牽引し、
前年比プラス26.1%の2,099億円となりました。

営業利益は、
売上拡大に伴う売上総利益の増加を主要因に、
プラス226%の189億円となりました。

また営業利益率もプラス5.5ポイントの9%と、
大幅に改善しました。

当期純利益は、営業利益の増加を主要因に、
前年比プラス131%の106億円となりました。

続いて、セグメント別の実績を説明いたします。

1Q期間(4～6月)実績：事業セグメント別

制御機器事業、ヘルスケア事業、データソリューション事業は増収増益。
社会システム事業は減収減益

（億円）

	売上高			営業利益		
	2025年度 1Q期間実績	2026年度 1Q期間実績	前年同期比	2025年度 1Q期間実績	2026年度 1Q期間実績	前年同期比
制御機器事業（ＩＡＢ）	956	**1,312**	+37.2%	106 (11.1%)*1	**213 (16.2%)**	+100.8% (+5.1pt)
ヘルスケア事業（ＨＣＢ）	312	**364**	+16.7%	12 (3.8%)	**24 (6.6%)**	+101.7% (+2.8pt)
社会システム事業（ＳＳＢ）	248	**242**	△2.0%	2 (0.7%)	**1 (0.3%)**	△62.5% (△0.4pt)
データソリューション事業（ＤＳＢ）*2	106	**131**	+22.8%	△1 -	**3 (1.9%)**	- -
うちJMDC	107	**126**	+17.5%	16 (14.5%)	**18 (14.5%)**	+17.5% (△0.0pt)
本社他（消去調整含む）	42	**49**	+16.5%	△61	**△51**	-
合計	1,665	**2,099**	+26.1%	58 (3.5%)	**189 (9.0%)**	+226.0% (+5.5pt)

*1. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す
*2. データソリューション事業（DSB）は、JMDC社の財務数値ならびに連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費、他データビジネスに関する財務数値を含む

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

まず、制御機器事業です。
AI需要を背景とした半導体・二次電池投資の獲得に加え、
顧客基盤の拡大が寄与し、
売上高は、前年比プラス37.2%の1,312億円となりました。
その結果、営業利益はプラス101%の213億円と、
大幅な増益となりました。

ヘルスケア事業です。
血圧計事業において、
日本・中国・アジアを中心にオンラインチャネルでの販促施策が奏功し、
売上高は前年比プラス16.7%の364億円となりました。
営業利益は売上拡大が寄与し、
プラス102%の24億円となりました。

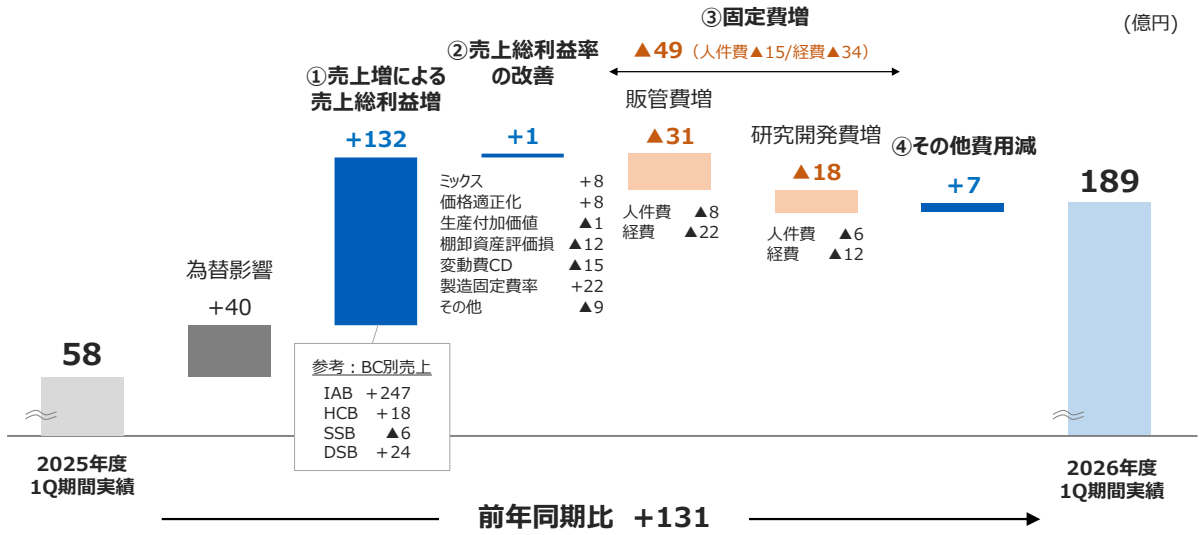
社会システム事業です。
蓄電システム事業が低調に推移したものの、
鉄道事業、マネジメント・サービス事業が堅調に推移し、
売上高・営業利益ともに前年並みとなりました。

最後にデータソリューション事業です。
JMDC社は、営業力の強化や、医療データの拡充を進めたことで、
製薬業界を中心に売上が拡大しました。
データソリューション事業全体では、売上高131億円、
営業利益は3億円となり、増収増益を達成しました。

次のページをご覧ください。

1Q期間(4～6月)実績：営業利益増減（前年同期比）

制御機器事業の売上拡大を主要因に、売上総利益が大幅に増加。
注力事業への成長投資を継続しながら、131億円の増益



Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

こちらは、営業利益を前年と比較したステップチャートです。
左から順に、説明いたします。

まず、①売上増による売上総利益の増加です。
制御機器事業を中心に売上が大幅に増加したことで、
全社で132億円の利益増となりました。

次に②売上総利益率の改善です。
部材価格上昇の影響を受けたものの、
事業ミックスや製造固定費率の改善が進んだことで、
全体では1億円の利益増となりました。

次に③固定費の増加です。
計画通り、注力事業を中心に成長投資を実行したことから、
全社で49億円の利益減となりました。

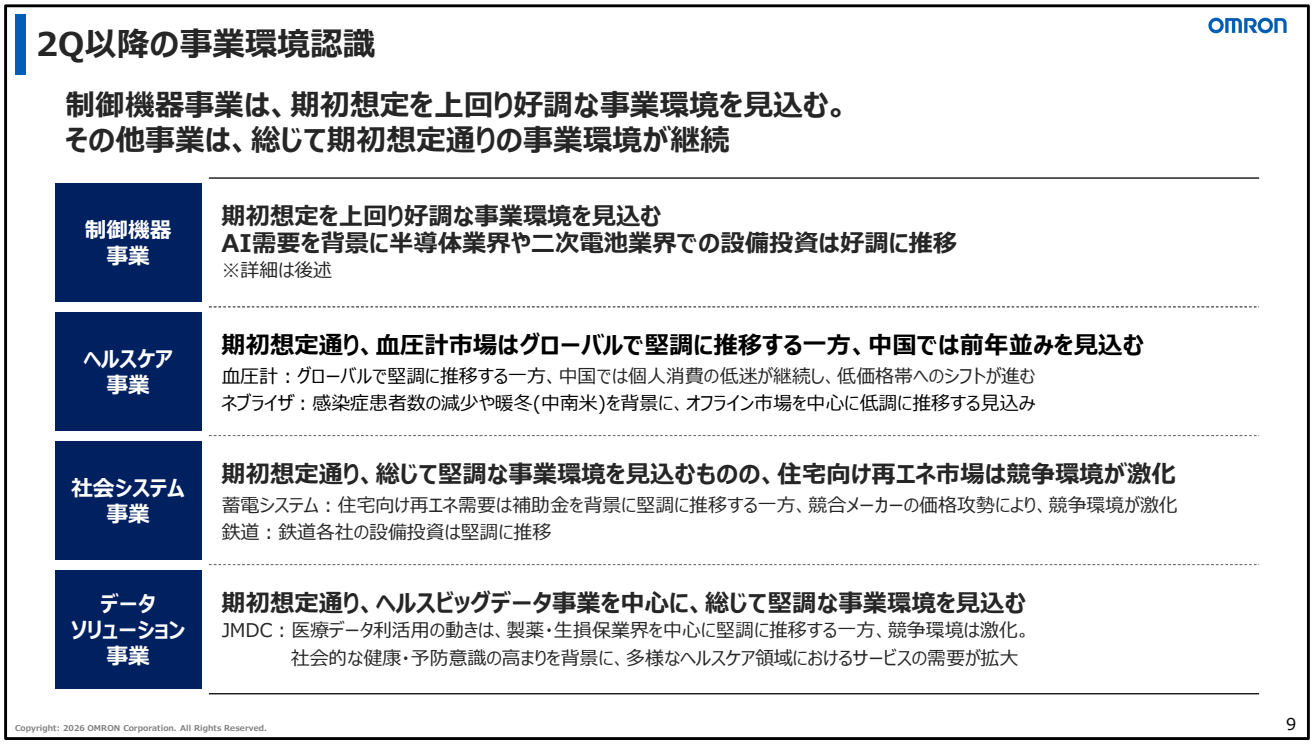
最後に、④その他費用です。
前年の構造改革に関する一時的費用の解消に伴い、
全社で7億円の利益増となりました。

実績に関するご報告は以上です。

続いて、通期見通しについて説明いたします。
9ページをご覧ください。

2． 2026年度 通期見通し

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.



まず、2Q以降の事業環境認識です。

制御機器事業をご覧ください。
期初想定を上回る好調な事業環境を見込んでいます。
後ほど、詳細をご説明いたします。

ヘルスケア事業です。
期初想定どおり、血圧計市場はグローバルで堅調に推移するとみています。
一方、中国市場は、個人消費の低迷が継続しており、
前年から横ばいで推移する見通しです。

社会システム事業です。
総じて堅調な事業環境が継続すると見込んでいます。
一方、住宅向け再エネ市場では、競合メーカーの価格攻勢により、
期初想定と比べ、競争環境が厳しくなるとみています。

最後にデータソリューション事業です。
期初想定通り、ヘルスビッグデータ事業を中心に、
堅調な事業環境が継続するとみています。

次に、全社の業績見通しについてお伝えします。

通期業績見通し：全社連結

売上・営業利益・当期純利益を上方修正

（億円）

	2026年度 期初計画	2026年度 今回見通し	期初計画比	2025年度 実績	前年度比
売上高	8,200	**8,800**	+7.3%	7,681	+14.6%
売上総利益	3,820	**4,100**	+7.3%	3,518	+16.5%
（売上総利益率）	（46.6%）	**（46.6%）**	（+0.0pt）	（45.8%）	（+0.8pt）
営業利益	620	**800**	+29.0%	564	+41.7%
（営業利益率）	（7.6%）	**（9.1%）**	（+1.5pt）	（7.3%）	（+1.7pt）
継続事業純利益	450	**580**	+28.9%	385	+50.5%
非継続事業純利益	△145	**△145**	-	△135	-
当社株主に帰属する当期純利益	275	**405**	+47.3%	222	+82.1%
継続事業純利益ベース					
ROE	5.5%程度	**7.0%程度**	-	4.8%	-
ROIC	4.0%程度	**5.5%程度**	-	3.8%	-
EPS（円）	228.86	**294.97**	+66.1	195.92	+99.0
米ドル　平均レート（円）	155.0	**156.2**	+1.2	150.3	+5.8
ユーロ　平均レート（円）	180.0	**181.3**	+1.3	173.9	+7.4
人民元　平均レート（円）	22.0	**23.1**	+1.1	21.1	+1.9

＊ 電子部品事業除く全社連結計画（非継続事業組替え後）

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

表の中央、網掛け部分をご覧ください。

売上高 8,800億円、売上総利益 4,100億円、
売上総利益率 46.6%、営業利益 800億円、
当期純利益 405億円です。

売上高、営業利益、当期純利益を上方修正いたします。

1Q実績と、2Q以降の好調な事業環境を踏まえ、
業績計画を見直しました。

セグメント別のスライドにて詳しく説明いたします。

通期業績見通し：セグメント別

制御機器事業、ヘルスケア事業は売上・営業利益を上方修正。
社会システム事業は売上・営業利益を下方修正

（億円）

	売上高				営業利益			
	2026年度 期初計画	2026年度 今回見通し	期初計画比	前年度比*1	2026年度 期初計画	2026年度 今回見通し	期初計画比	前年度比*1
制御機器事業（ＩＡＢ）	4,400	**5,000**	+13.6%	+21.9%	440 (10.0%)*2	**650 (13.0%)**	+47.7% (+3.0pt)	+64.9% (+3.4pt)
ヘルスケア事業（ＨＣＢ）	1,500	**1,550**	+3.3%	+6.7%	150 (10.0%)	**155 (10.0%)**	+3.3% -	+32.3% (+1.8pt)
社会システム事業（ＳＳＢ）	1,530	**1,480**	△3.3%	+2.7%	225 (14.7%)	**195 (13.2%)**	△13.3% (△1.5pt)	+0.5% (△0.3pt)
データソリューション事業（ＤＳＢ）*3	620	**620**	-	+21.2%	50 (8.1%)	**50 (8.1%)**	- -	+20.1% (△0.1pt)
うちJMDC	605	**605**	-	+19.9%	115 (19.0%)	**115 (19.0%)**	- -	+9.3% (△1.8pt)
本社他（消去調整含む）	150	**150**	-	△14.1%	△245	**△250**	-	-
合計	8,200	**8,800**	+7.3%	+14.6%	620 (7.6%)	**800 (9.1%)**	+29.0% (+1.5pt)	+41.7% (+1.7pt)

*1. セグメント別の前年度比は、IFRSでの決算作業が未了の2025年度実績と比較し、算出した数値
*2. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す
*3. データソリューション事業（DSB）は、JMDC社の財務数値ならびに連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費、他データビジネスに関する財務数値を含む

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

まず、制御機器事業です。
売上高、営業利益ともに上方修正いたします。
引き続き、期初想定を上回る投資需要を獲得するとともに、
顧客基盤の拡大を着実に進めていくことで、
大幅な増収増益を見込んでいます。

なお、同事業の見通しは、
現時点で調達の目途が立っている部材を前提としています。
引き続き部材調達の強化を進め、
旺盛な需要を着実に取り込んでいきます。

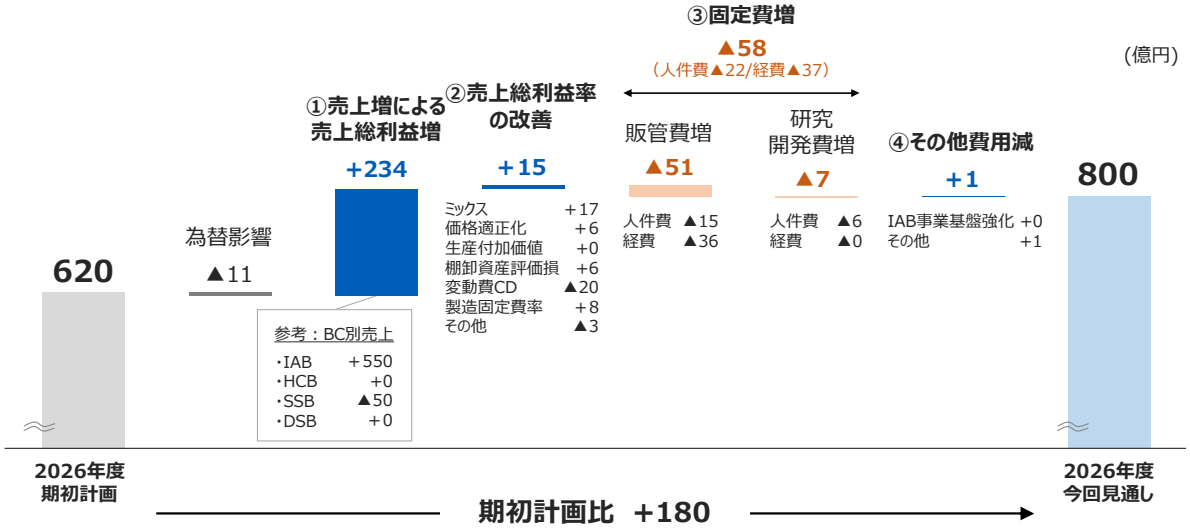
ヘルスケア事業です。
為替影響を反映し、売上高・営業利益ともに上方修正いたします。
オンラインチャネルでの販促強化や新商品の導入効果を織り込み、
増収増益を見込んでいます。

社会システム事業です。
蓄電システム市場における競争環境の変化を踏まえ、
売上高、営業利益ともに期初計画を見直しました。
競合メーカーの価格攻勢が続くなか、
シェア拡大に向けた施策を着実に実行してまいります。

データソリューション事業です。
売上高・営業利益ともに期初計画から変更はございません。
次のページをご覧ください。

通期業績見通し：営業利益増減（期初計画比）

制御機器事業の売上拡大を主要因に、期初計画比＋180億円の増益を見込む



Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

こちらは、営業利益について、
期初計画と比較したステップチャートです。

本スライドにて、
営業利益を上方修正した要因を説明いたします。

まず、①売上増による売上総利益の増加です。
制御機器事業の売上拡大により、
全社で234億円の利益増を見込んでいます。

次に、②売上総利益率の改善です。
全社で15億円の利益増を見込んでいます。
期初想定を上回る、部材価格や物流費の上昇を、
事業ミックスの改善や、売価施策の効果により吸収する見込みです。

次に、③固定費の増加です。
売上連動経費の増加が主な要因です。
期初計画どおり成長投資を実行していくことで、
来期以降の成長へと繋げてまいります。

④その他費用については、期初計画から大きな変更はありません。

次のスライドから、制御機器事業について、詳しく説明いたします。

制御機器事業：2Q以降の事業環境認識

OMRON

AI関連需要を背景に、半導体や二次電池業界での設備投資は期初想定を上回り好調に推移

業界	事業環境認識
半導体	・生成AI関連需要を背景に、先端半導体の設備投資がグローバルで拡大継続 中国では、国産化を背景とした装置メーカーの投資拡大が継続
AXI (X線基板検査装置)	・データセンター需要を背景に、関連メーカーの設備投資は堅調に推移
EV・ 二次電池	・EV向けの設備投資は、一部で戦略投資を見込むも、 需要の低迷を背景に総じて横ばい ・二次電池の設備投資は、データセンター需要を受け、 ESS(電力貯蔵システム)向けに高位継続
その他*	・設備投資需要は、グローバルで総じて緩やかな回復を見込む

＊「半導体、AXI」「EV・二次電池」を除いた全ての業界

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

13

まず、事業環境認識です。

半導体業界をご覧ください。
引き続き、生成AI需要を背景に、
先端半導体の設備投資がグローバルで拡大するとみています。
中国においても、装置メーカーの投資拡大が継続する見通しです。

またAXIについても、
データセンター需要を背景に、引き続き設備投資が
堅調に推移するとみています。

次にEV・二次電池業界です。

EV向けの設備投資は、
一部のエリアやメーカーにて、戦略投資を見込むものの、
総じて横ばいに推移するとみています。

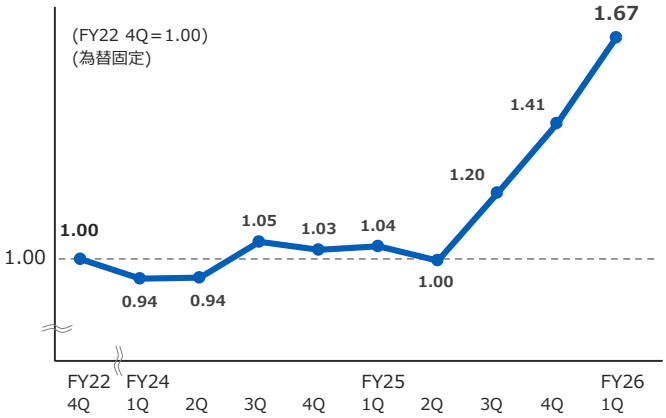
一方、二次電池の設備投資は、データセンター向けに
高水準で継続する見通しです。

次のページをご覧ください。

制御機器事業：受注水準の推移

1Qの受注水準は、前年下期からの上昇トレンドが継続。AI需要の獲得が受注の伸びを牽引

受注水準の推移



1Q受注推移の背景

1 AI需要を背景とした設備投資需要の獲得

- 先端半導体投資の獲得
- データセンター向け二次電池投資の獲得
- AIサーバ向けの基板検査需要の獲得

2 顧客基盤の拡大

- 顧客ニーズを捉えた新商品ラインナップの拡充
- 顧客別の取引状況の可視化と提案強化

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

14

受注水準の推移について説明いたします。

1Q期間の受注水準は、ご覧の通り、
昨年度4Qに引き続き、大きく増加しました。

その背景は、大きく2点あります。

1点目は、
AI需要を背景とした設備投資需要の獲得です。

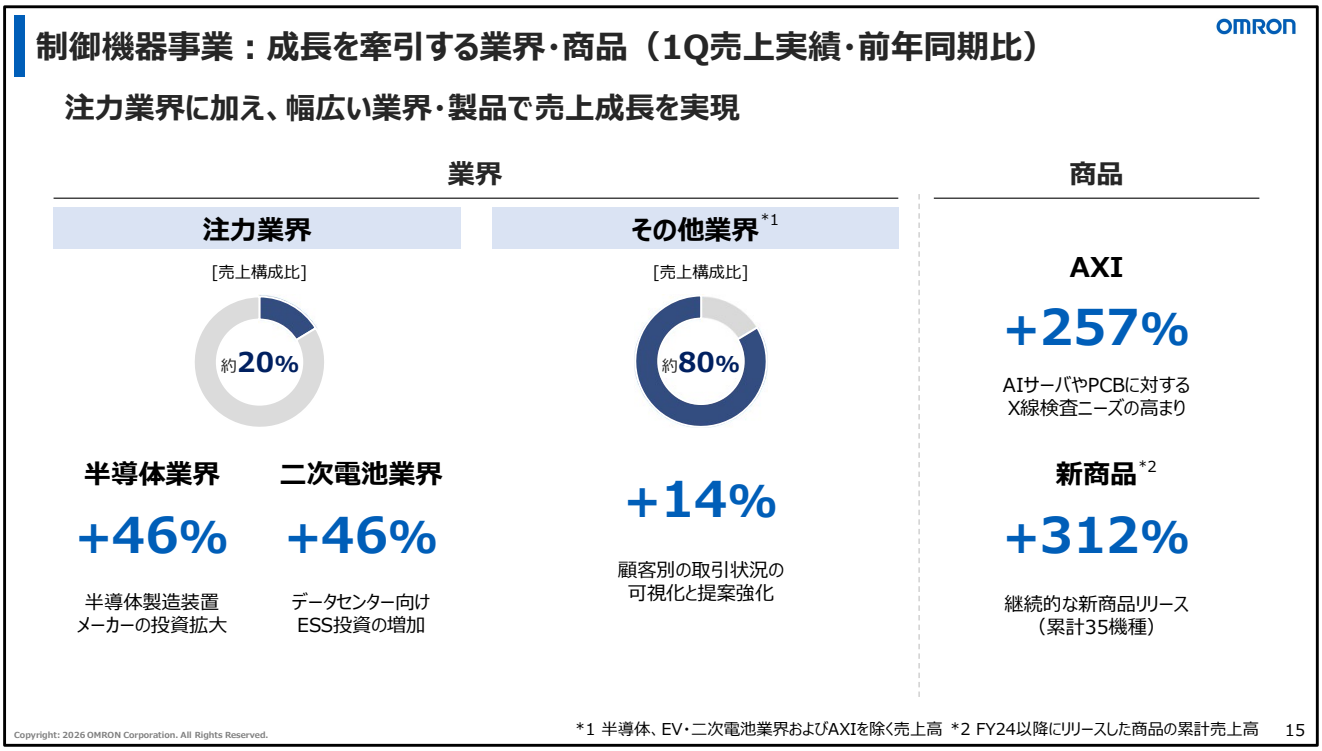
先端半導体やデータセンター向けの二次電池投資に加え、
AIサーバ向けの基板検査需要を取り込むことが出来ています。

2点目は、顧客基盤の拡大です。

新商品の拡充を進めるとともに、
グローバル11万社のお客さまとの取引状況を可視化し、
そのデータをもとに代理店様との提案活動を強化しています。

こうした取り組みが、幅広い業界での受注に繋がっています。

次のページをご覧ください。



このスライドでは、
1Qの成長を牽引した業界と商品について説明いたします。

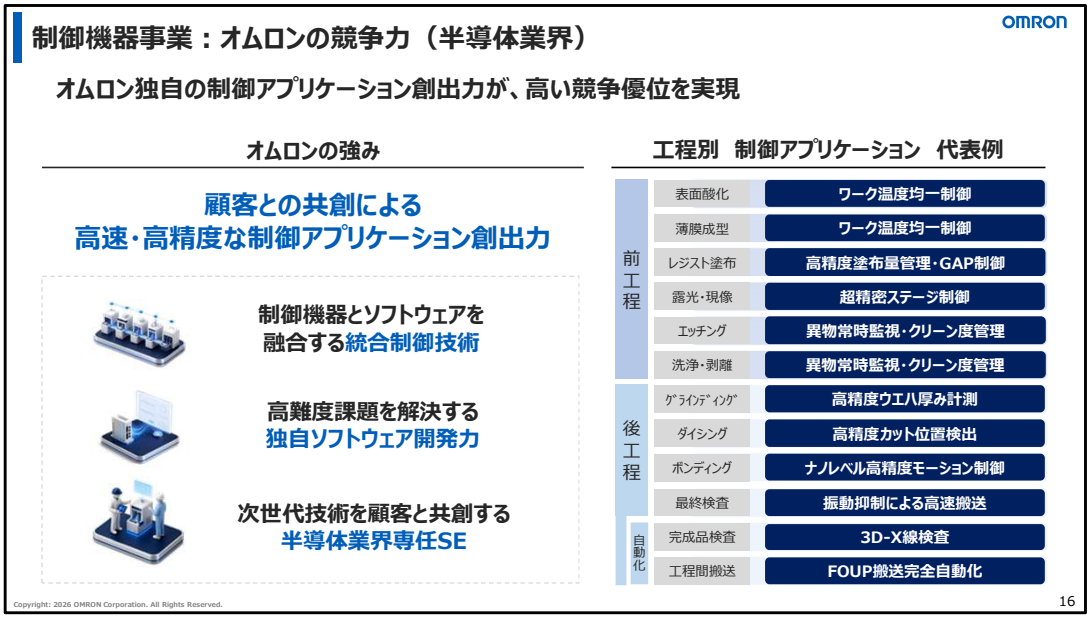
スライド左側をご覧ください。
注力業界として定めている、半導体、二次電池業界で
高い成長を実現しました。

また、売上の約8割を占める「その他」業界においても、
幅広いお客様の需要を捉え、2ケタの成長を実現しています。

スライド右側をご覧ください。
商品別では、AXIが大きく伸長しています。
データセンター需要の拡大を背景に、
プラス257%と、極めて高い成長を実現しました。

また24年度以降、継続的に市場投入してきた新商品も、
お客様から高いご評価を頂き、着実に売上が拡大しています。

次のページでは、
注力業界での成長を支えるオムロンの競争力について説明いたします。



半導体や二次電池業界で成長出来ているのは、
市場の拡大だけが理由ではありません。

高度化する製造現場の課題を解決できる
アプリケーション創出力があるからこそ、需要を獲得できていると考えています。

半導体業界では、微細化・積層化が進むことで、
高速・高精度・高品質を実現する製造技術への要求が年々高まっています。

オムロンは、長年にわたりお客様と共創を重ねることで、
こうした課題を解決する独自の制御アプリケーションを数多く創出してきました。

制御機器同士をソフトウェアですり合わせることにより、
機器単体では実現できない高速・高精度な制御が可能となり、
これが技術的な競争力につながっています。

さらにスライド右側で示しているとおり、
前工程から後工程まで、半導体製造プロセス全体で幅広い
制御アプリケーションを提供しています。

個々の工程だけでなく、製造プロセス全体で価値を提供できていることが、
オムロンの強みであり、お客様からの高い評価と継続的な採用に
繋がっています。

今後も、競争力あるアプリケーションの創出を通じて、
更なる成長を実現してまいります。

以上、2026年度通期見通しに関する説明でございます。

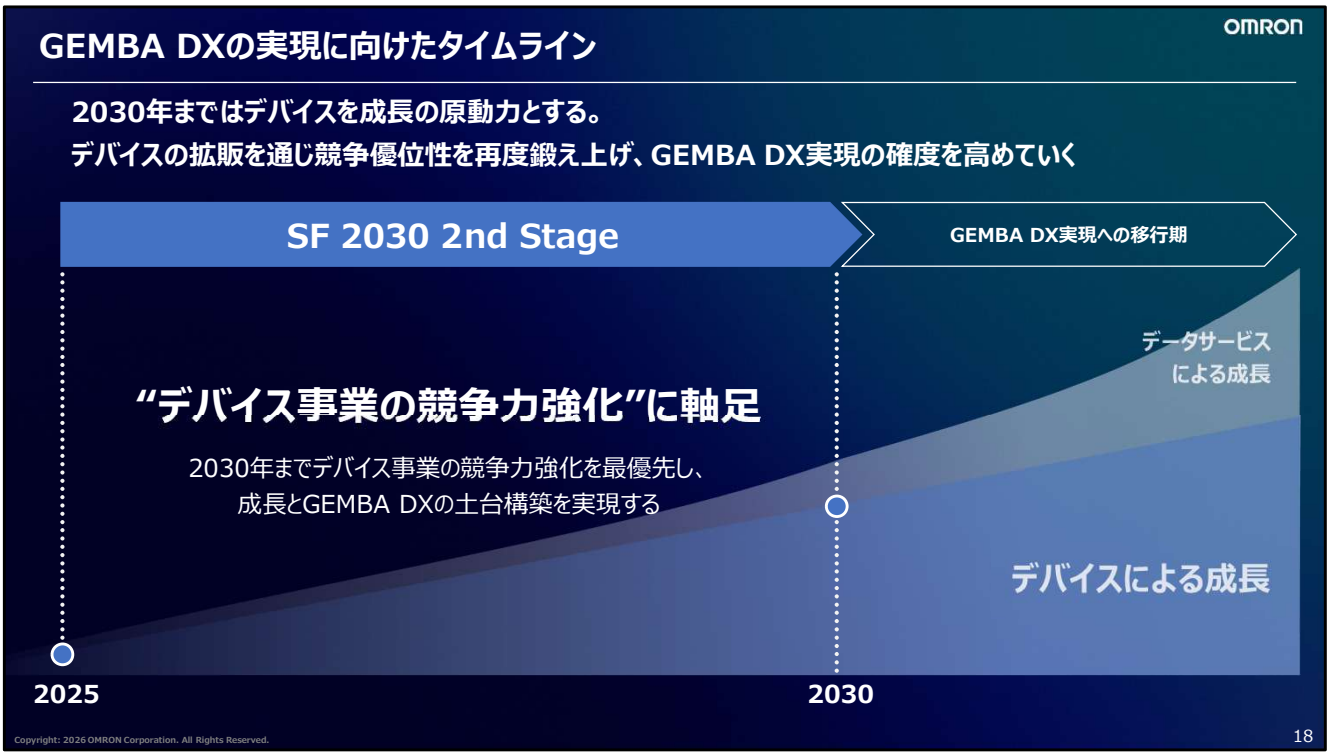
3． CFOメッセージ

Copyright: 2026 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

ここまでご説明したとおり、
1Qでは制御機器事業を中心に、
売上、利益ともに力強い実績を示すことができました。

ここからは、この成果に繋がっている
グループの取り組みについて、お話しいたします。

次のページをご覧ください。



昨年11月に発表した、
2030年に向けた中期ロードマップでは、
いま一度原点に戻り、
データサービスにつながる
デバイス事業の競争力強化を
最優先する方針をお示ししました。

今回の実績は、構造改革以降進めてきたこの取り組みが、
着実に成果として表れ始めたものだと捉えています。

デバイス事業の競争力強化は、
制御機器事業だけでなく、
各事業における顧客基盤の拡大につながっています。

次のページをご覧ください。



まずVALUEの強化です。

構造改革以降、各事業において、
エリアや市場ニーズを捉えた多くの新商品を
市場へ投入してきました。

また、AI技術を取り入れた、
付加価値の高い商品も、順次リリースしています。

そしてFRONTでは、
営業・マーケティングの強化を進めています。

販売チャネルの強化に加え、
データを活用し、お客様ごとに最適な価値を、
より効率的に届ける仕組みを構築しています。

これらの取り組みにより、
既存顧客とのリレーション強化や、新規顧客の獲得が進み、
顧客基盤の拡大に繋がっています。

顧客基盤は、オムロンの持続的な成長を支える土台です。

今後も、VALUEとFRONTの両面から競争力を高め、
顧客基盤をさらに拡大してまいります。



最後に私から皆様へ一言お伝えさせていただきます。

本日ご説明したとおり、
本年度からスタートしたSF 2nd Stageは、
力強いスタートを切ることができました。

今回、通期業績見通しを上方修正しましたが、
決してこの水準で満足しているわけではありません。

まずは調達をはじめとした供給力の強化を進め、
お客様から頂いている旺盛な需要にしっかりと応えてまいります。

そして、顧客基盤の拡大を追求するとともに、
本日は詳細を申し上げませんでしたが、
規律ある投資を徹底することで、さらなる業績拡大を狙います。

取り組むべき施策はすでに定め、実行に移しています。
ぜひ今後の業績にご期待ください。

以上で、本日の発表を終了いたします。
ご清聴ありがとうございました。